

事業評価シート（平成27年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	道徳教育推進事業		
事業担当	学校教育部 教育指導課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'01	①〈人間力〉 一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	
	'01	1いのちを大切にすることをもち、社会性や規範意識を身につける環境をつくる	
根拠法令等			
対象・受益者	教員、幼児・児童・生徒	事業期間	
委託・協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 】		
	目的・目標		事業の概要
教員の道徳授業に関する力量を高めることにより、児童、生徒の道徳的実践力の向上が図られています。		児童、生徒の道徳的実践力を育成するため、教員を対象とした公開授業及び授業研究会を実施するとともに、体験活動を生かした児童、生徒の心に響く道徳教育を充実します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	道徳授業研究会等の実施			単位	回
	説明・算定式					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	実績	2	2	3		
活動指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	実績					
成果指標①	指標名	道徳授業研究会参加者からの評価			単位	点
	説明・算定式	道徳授業研究会参加者によるアンケート(4段階)の平均値				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	実績	3.8	3.8	3.6		
成果指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	実績					
進捗状況	①：予定どおり					
	遅れている理由					
平成27年度の主な取組と成果						
児童・生徒の道徳的実践力を育成するため、公開授業を通じた授業研究会を小・中学校において実施しました。公開授業及び授業研究会の成果を各学校で生かし、道徳の授業を要とし、学校の教育活動全体を通じて体験活動も大切にしながら、児童・生徒の心に響く道徳教育の充実を図ることができました。						
平成27年度の検証結果	A：成果があがった					

項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価	
事業分析	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	児童・生徒の心に響く道徳教育の充実が図れるよう、公開授業を通じた授業研究会を計画的に行うことが必要です。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	公開授業を通じた授業研究会を小・中学校で実施することにより、道徳教育の充実が図られています。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	公開授業を通じた授業研究会を行うことにより、教員の授業力の向上とともに、児童・生徒の道徳的実践力の育成が図られています。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
	効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	小・中学校の連携を踏まえた事業を検討するとともに、義務教育9年間を通じた道徳教育の研究を進めています。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
今後に向けた課題の分析 学習指導要領では、道徳教育は道徳の時間を要とし、学校の教育活動全体を通じて行うものであると示されています。今後も、小学校・中学校で実施している研究会を通じて、各学校で、発達の段階に応じた指導内容の重点化や、小・中学校の連携が深められるよう、事業内容を検討することが必要と考えます。				

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成25年度 決算額	平成26年度 決算額	平成27年度 決算額
事業内容		道徳授業研究会等の実施	道徳授業研究会等の実施	道徳授業研究会等の実施
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	起債	0	0	0
	その他 特財	0	0	0
	一般財源	0	0	0
事業費 (A)		0	0	0
執行率 (%)		—	—	—

4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

平成29年度の取組方針 小・中学校の連携を図るとともに、教科としての道徳を見据え、内容の精選、充実を図ります。
課長コメント 今後、さらに道徳の時間を要とした道徳教育の推進、更には道徳の教科化を鑑み、授業研究会等を小・中学校において継続して実施していきたいと考えています。また、小・中学校の連携が図れるよう、それぞれの研究会では、異校種の教員の参加体制を保っていきます。